

令和4（2022）年度10月期入学

福島大学大学院

共生システム理工学研究科
（博士前期課程）

- ◇ 共生システム理工学専攻
- ◇ 環境放射能学専攻

学生募集要項

本学生募集要項は、令和4（2022）年度10月期入学を対象としています。
令和5（2023）年度4月期入学については、令和5（2023）年度4月期入学対象の学生募集要項を確認してください。
令和4（2022）年度10月期入学の入試から、共生システム理工学研究科（博士前期課程）はインターネット出願となりました。

新型コロナウイルス感染拡大の状況により、試験日程等が変更になる場合があります。最新情報は本学ウェブサイトでご確認ください。
（入試情報<http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/>）



〒960 - 1296

福島市金谷川1番地
024 - 548 - 8064（入試課）
<http://www.fukushima-u.ac.jp/>

福島大学
スマートフォン対応サイト



目 次

福島大学大学院共生システム理工学研究科（博士前期課程）学生募集要項

1 - 1 . 共生システム理工学専攻（博士前期課程）アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）...	1
1 - 2 . 環境放射能学専攻（博士前期課程）アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）	2
2 . 募集人員	3
3 . 出願資格	3
4 . 出願手続	5
5 . 選抜方法	9
6 . 試験日程および試験会場	10
7 . 障がい等のある入学志願者の事前相談	10
8 . 安全保障輸出管理について	10
9 . 合格者発表	11
10 . 入学手続および入学手続に係る留意事項	11
11 . 入学料・授業料の減免について	11
12 . 注 意 事 項	11
13 . 東日本大震災（原発事故含む）および激甚災害において 被災された方に対する検定料の免除について	12
14 . 入試における新型コロナウイルス感染症対応について	13

- 1 福島大学大学院共生システム理工学研究科 共生システム理工学専攻（博士前期課程）の特色

1 . 教育課程の編成の基本理念.....	15
2 . 修了要件，履修方法および学位の授与.....	15
3 . 開設授業科目および単位数.....	16
4 . 教員一覧および担当授業科目.....	18
5 . 福島県関係研究機関等との協力について.....	19
6 . 教育方法の特例措置について.....	19
7 . 長期履修学生制度について.....	19
8 . 教育職員免許状.....	19

- 2 福島大学大学院共生システム理工学研究科 環境放射能学専攻（博士前期課程）の特色

1 . 教育課程の編成の基本理念.....	20
2 . 修了要件，履修方法および学位の授与.....	20
3 . 開設授業科目および単位数.....	21
4 . 教員一覧および担当授業科目.....	22
5 . 指導教員一覧.....	22
6 . 環境放射能研究所の連携機関等との協力について.....	23
7 . 長期履修学生制度について.....	23

本学共生システム理工学研究科博士前期課程は，共生システム理工学専攻と環境放射能学専攻の2専攻からなります。共生システム理工学専攻は4つの分野（数理・情報システム分野，物理・メカトロニクス分野，物質・エネルギー科学分野，生命・環境分野）からなり，環境放射能学専攻は3つの分野（生態学分野，モデリング分野，計測分野）からなります。

これらの専攻および分野の詳しい内容については，本学ウェブサイトをご覧ください。

（共生システム理工学研究科 https://www.sss.fukushima-u.ac.jp/guides/faculty_index#02）

福島大学大学院共生システム理工学研究科（博士前期課程）学生募集要項

1 - 1 . 共生システム理工学専攻（博士前期課程）アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

教育目標と求める学生像

温室効果ガスによる地球温暖化，化石資源・化石エネルギー資源の枯渇，経済発展に伴う環境負荷は，地球規模の課題となっています。自然との共生を図りながら経済発展を可能とする，新たな省エネルギー・省資源の技術開発が不可欠な状況になっています。また，わが国では高齢化社会が到来し，介護・医療分野においては高度な支援が求められ，働く世代の減少に伴う産業構造の変革も求められています。

こうした課題の解決のためには，従来の科学技術の枠組みにとらわれず，地球規模の視野と多角的な視点を持ち，「共生のシステム科学」という新たな枠組みの中で物事を考え，対応できる力を有する人材が必要です。

共生システム理工学専攻では，人 - 産業 - 環境における共生のための新たなシステム科学の構築を志し，課題解決に向けて積極的に挑戦しようとする強い意欲を持つ人を対象として，本専攻に相応しい人材を選抜します。

本専攻には4つの分野があり，それぞれ以下のような研究を通して，専門的な知識・技術・技能，実践的な知識運用・課題解決能力，および多角的な視点から事象をとらえようとする姿勢を育成しています。いずれかの分野に興味があり，自分に適合していると考えた学生を求めています。

[数理・情報システム分野]

数学，情報科学，経営システム工学，およびそれらを基礎とする数理・情報システム分野の研究

[物理・メカトロニクス分野]

物理学，機械工学，電気電子工学，制御工学，およびそれらを基礎とする物理・メカトロニクス分野の研究

[物質・エネルギー科学分野]

化学，材料工学，化学工学，エネルギー工学，およびそれらを基礎とする物質・エネルギー科学分野の研究

[生命・環境分野]

生物学，心理学，地学，気象学，水文学，およびそれらを基礎とする生命・環境分野の研究

入試の際に求める知識・技能・意欲

共生のシステム科学という新たな学問体系の枠組みの中で，地域に貢献できる実践的な力を有する専門職業人となるため，カリキュラム・ポリシーに示した科目群の履修と修士論文研究の遂行ができるための要件として，以下に掲げる知識，技能，意欲を有している学生あるいは社会人を求めます。

- ・理工系大学の学士課程までに学ぶ基礎的な知識
- ・柔軟な思考力，理解力，応用力，および表現力
- ・現代社会の課題解決に多様な人々と協働して取り組む意欲と，学習・研究に対する主体性

入学者選抜の基本方針

一般入試，社会人特別入試，外国人留学生特別入試，推薦入試（高等専門学校専攻科生対象）の枠を設け，口頭発表・口頭試問および出願書類を総合的に判断して選抜を行います。

口頭発表では，受験者に学類・学部在学中の卒業研究および入学後の研究内容について説明を求め，口頭試問では，口頭発表やその内容に関連する基礎的・専門的事項について重点的に試問を行います。口頭発表・口頭試問を通じ，上記に示す学生像および求める知識・技能・意欲を備えているか総合的に評価を行います。

1 - 2 . 環境放射能学専攻 (博士前期課程) アドミッション・ポリシー (入学受入方針)

教育目標と求める学生像

環境中にある放射性核種は、大気や水の循環、生物の活動などにより、その形態を変えつつ環境中をダイナミックに移動し、それを支配する因子は、放射性核種自身の物理的・化学的性質に加え、気象条件や土壌の性質、動植物の生理生態学的な特性など多岐にわたります。したがってその解明には、生態学、生物学、地球科学、現象数理学、化学、物理学、機械工学、電気工学などのさまざまな学問分野の知識を横断的に理解するとともに、俯瞰的に考察することが必要です。

これまで人類は、大気圏核実験や事故等によって人工放射性核種の環境放出を経験していますが、その影響については未解明な部分が多くあります。また、近年の高度な工業製品の開発に不可欠であるレアメタル等の天然資源の開発などに係る天然放射性核種の管理も、重要な課題となってきています。

環境放射能学専攻では、こうした課題に対応するため、人工および天然放射性核種の環境中の動態を解明し、計測、モニタリング計画、制御、予測、評価などに中長期的視点で総合的に取り組むとともに、それを環境防護、予測評価、環境修復、廃炉、中間貯蔵、浄化などの課題解決ならびに学術の発展に積極的に挑戦しようとする強い意欲を持つ人を対象として、柔軟な思考力、分析・観察力などを総合的に評価し、本専攻に相応しい人材を選抜します。

本専攻には3つの分野があり、それぞれ以下のような研究を通して、専門的な知識・技術・技能、実践的な知識運用・課題解決能力、および多元的な視点から事象をとらえようとする姿勢を育成しています。いずれかに興味があり、自分に適合していると考えられる学生を求めています。

[生態学分野]

生態学、生物学、およびそれらを基礎とする放射生態学分野の研究

[モデリング分野]

地球科学、現象数理学、およびそれらを基礎とする放射能モデリング分野の研究

[計測分野]

化学、物理学、機械工学、電気工学、およびそれらを基礎とする放射能計測分野の研究

入試の際に求める知識・技能・意欲

環境放射能学という学際的な学問体系の枠組みの中で、新たなる未知の課題に対応できる実践的な力を有する専門職業人となるための、カリキュラム・ポリシーに示した科目群の履修と修士論文研究の遂行ができるための要件として、以下に掲げる知識、技能、意欲を有している学生あるいは社会人を求めます。

- ・理工系大学の学士課程までに獲得する基礎的な知識
- ・柔軟な思考力、理解力、応用力、および表現力
- ・現代社会の課題解決に多様な人々と協働して取り組む意欲と、学習・研究に対する主体性

入学受入の基本方針

一般入試、社会人特別入試、外国人留学生特別入試、推薦入試(高等専門学校専攻科生対象)の枠を設け、口頭発表・口頭試問および出願書類を総合的に判断して選抜を行います。

口頭発表では、受験者に学類・学部在学中の卒業研究および入学後の研究内容について説明を求め、口頭試問では、口頭発表やその内容に関連する基礎的・専門的事項について重点的に試問を行います。口頭発表・口頭試問を通じ、上記に示す学生像および求める知識・技能・意欲を備えているか総合的に評価を行います。

2. 募集人員

一般入試，社会人特別入試，外国人留学生特別入試

専攻名	分野	募集人員
		令和4（2022）年度 10月期入学
共生システム理工学専攻	数理・情報システム	若干名
	物理・メカトロニクス	
	物質・エネルギー科学	
	生命・環境	
環境放射能学専攻	生態学	若干名
	モデリング	
	計測	

募集人員は，一般入試，社会人特別入試，外国人留学生特別入試の合計数です。

推薦入試（高等専門学校専攻科生対象）については，10月期入学の募集はありません。

各専攻での分野ごとの定員は設定していません。

3. 出願資格

一般入試

次の～のいずれかに該当し，かつ入学試験日の2年前から出願までの間に TOEIC Listening & Reading Test または TOEIC Listening & Reading IP を受験した者

大学を卒業した者および入学希望月の前月末日までに卒業見込みの者

学校教育法第104条第7項の規定により，学士の学位を授与された者および入学希望月の前月末日までに授与される見込みの者

外国において，学校教育における16年の課程を修了した者および入学希望月の前月末日までに修了見込みの者

外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより，当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者および入学希望月の前月末日までに修了見込みの者

我が国において，外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者および入学希望月の前月末日までに修了見込みの者

外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について，当該外国の政府または関係機関の認証を受けた者による評価を受けたものまたはこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において，修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了することおよび当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって学校教育法施行規則第155条第1項第4号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により，学士の学位に相当する学位を授与された者および入学希望月の前月末日までに授与される見込みの者

専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者および入学希望月の前月末日までに修了見込みの者

昭和28年文部省告示第5号をもって文部科学大臣の指定した者

外国において学校教育における15年の課程を修了し，または外国の学校が行う通信教育に

おける授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了し、所定の単位を優秀な成績で修得したものと本研究科において認められた者
我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、所定の単位を優秀な成績で修得したものと本研究科において認められた者
本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、入学希望月の前月末日現在で満22歳に達している者

(注)ア．上記 に該当する者とは、上記 から に該当しない者（例えば、短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校等の卒業者）で、本研究科において、個別の入学資格審査をもって、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者です。

イ．出願資格 ， または で出願しようとする者については、個別の入学資格審査を行いますので、本学所定の申請書に必要事項を記入し、必要書類を添えて、出願の1か月前までに提出してください。なお、申請に必要な書類については、本学入試課に問い合わせるか、本学ウェブサイトの「入試情報」を参照してください。

ウ．入学資格審査により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者について出願を受け付け、受験を許可します。

社会人特別入試

「一般入試」出願資格 ~ のいずれかに該当し、かつ、 ， または のいずれかの要件に該当する者

出願時に、企業、公共機関等に在職している者（大学在学中の者は除く）

出願時に、企業、公共機関等に在職していないが、入学予定時において、大学を卒業してから2年以上経過した者

出願時に、企業、公共機関等に在職していないが、入学予定時において、大学評価・学位授与機構から学士の学位を取得してから2年以上経過した者

外国人留学生特別入試

日本国籍を有しない者で、「一般入試」出願資格 ~ のいずれかに該当する者

(注)「一般入試」出願資格 または のいずれかに該当している場合は、「外国人留学生特別入試」で出願することはできません。

4. 出願手続

出願に当たっては、事前に志望分野の希望指導教員と連絡を取り、研究分野の適合性について必ず相談してください。

連絡先等が不明な場合には、本学入試課（E-mail：nyushi@adb.fukushima-u.ac.jp）まで連絡してください。

出願方法の確認（Step 1）

出願手続の手順については、本学ウェブサイト「入試情報」

（<http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/>）に掲載されている「インターネット出願ガイド」

および以下を参照してください。

インターネット出願登録（下記Step 2）だけでは出願手続は完了しません。

Step 1	出願方法の確認 （5～6ページ参照）	出願手続を始める前に、この学生募集要項をよく読んで、内容を確認してください。
Step 2	インターネット出願登録（6ページ参照）	出願登録期間内に、インターネット出願サイトにアクセスして必要な情報を入力してください。
Step 3	検定料の支払い （6～7ページ参照）	インターネット出願サイトの指示に従い、検定料を支払ってください。（検定料免除申請をする場合は支払わないでください。）
Step 4	必要書類の作成・印刷・送付 （7～9ページ参照）	インターネット出願サイトおよび本学ウェブサイトから印刷した必要書類と、他の全ての必要書類を出願期間内に本学へ届くよう「一般書留速達」で郵送してください。
Step 5	受験票の印刷 （9ページ参照）	出願が受理された方は、出願期間後にインターネット出願サイトから受験票を印刷できるようになります。入学志願者各自がカラー印刷して、必ず試験当日に持参してください。

事前準備 (Step 1)

インターネット出願登録の前に、あらかじめ余裕をもって確認および準備をしてください。	
パソコン等の準備	<p>インターネット出願は、以下の環境で行ってください。</p> <p><Windows></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Microsoft Edge (最新バージョン) ・ Google Chrome (最新バージョン) ・ Firefox (最新バージョン) <p><Mac OS></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Safari (最新バージョン) <p><Android 5.0 以上></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Android Chrome <p><iOS 10.0 以上></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Safari <p>最新バージョン以外でも利用することはできますが、正常に動作しない場合がありますのでご注意ください。また、その場合は最新バージョンへアップデートしてご利用ください。</p>
メールアドレスの準備およびメールの設定	<p>出願にはメールアドレスが必要となりますので、事前にメールアドレスを準備してください。スマートフォン、携帯電話等のメールアドレスも利用可能です。なお、ドメイン指定受信を設定されている方は、次のドメインからのメールを受信できるように設定を追加してください。 (@adb.fukushima-u.ac.jp, @postanet.jp)</p> <p>出願時に登録したメールアドレスに、以下の4～5回メールが送信されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネット出願登録入力中のテストメール 出願登録情報の入力完了時の自動送信メール 検定料支払完了時の自動送信メール(検定料免除の場合は送信されません) 顔写真が承認または非承認された際のメール 受験票が取得・印刷可能になった際の通知メール <p>受験票を印刷するまで、メールアドレスは変更しないでください。</p>
入学志願者本人写真(データ)の準備	<p>インターネット出願登録にあたって、カラーの顔写真データ(jpg)が必要です。(受験票に顔写真が掲載されることとなります。)</p> <p>写真は本人確認に使用しますので、インターネット出願サイトにて出願前3か月以内に正面向、上半身、脱帽、背景なしで撮影した鮮明な写真をアップロードしてください。</p> <p>写真の比率は縦4cm×横3cm、ファイルサイズは3MBまでです。</p> <p>以下の【使用できない写真の例】に該当するような、本人確認に支障のある写真の場合は、出願を受け付けられないことがあるので注意してください。</p> <p>【使用できない写真の例】</p> <p>不鮮明、背景が暗い、顔が横向き、化粧や前髪が目にかかるなどで本人確認が困難、複数名で写っている、画像に加工を施している、<u>現像された写真を再撮影しているもの等</u>。</p>
必要書類等の準備	<p>「出願書類」(8ページ参照)記載の書類を、出願期間に間に合うようあらかじめ準備してください。</p>
出願書類提出用封筒の準備	<p>出願書類提出のために、市販の角形2号封筒(240mm×332mm)を準備してください。</p>
様式印刷の準備(プリンタ、印刷用紙等)	<p>インターネット出願サイトから出力する様式類は、A4サイズの印刷用紙にカラー印刷する必要がありますので、カラープリンタおよび印刷用紙を準備してください。印刷条件に適合していれば、公共施設やコンビニエンスストアの印刷サービスを利用して印刷しても構いませんが、個人情報の取り扱いには十分注意してください。</p> <p>印字が不鮮明で事実確認ができない場合は、本人に問い合わせをする場合があります。</p>

インターネット出願登録期間 (Step 2)

令和4(2022)年7月13日(水)～7月21日(木) 午後4時30分まで

検定料の支払い (Step 3)

検定料は30,000円です。インターネット出願サイトの支払い方法を参照して、「クレジットカード」「コンビニエンスストア」「ペイジー(ネットバンキング・銀行ATM)」のいずれかの方法で払い込んでください。(払込手数料が別途必要です。)

【払込期間】

令和4(2022)年7月13日(水)～7月21日(木) 午後4時30分まで
なお、支払期限はインターネット出願登録を完了した日を含む4日間です。
(出願締切が4日より短い場合、出願締切が優先されます。)

出願書類を受理した後は、いかなる理由があっても検定料は返還できません。ただし次の場合は検定料返還請求ができますので下記に申し出てください。

- ア．検定料を払い込んだが、出願しなかった
(出願書類を提出しなかった、または出願が受理されなかった)
 - イ．検定料を誤って二重に払い込んだ
 - ウ．出願期間終了までに、検定料免除に該当することを証明する書類を取得できなかったものの、出願期間終了後に取得した
- なお、請求方法等については、該当者へ個別に通知します。

検定料返還に関する問合せ先：福島大学財務課出納係
Tel:024 - 548 - 8015

検定料免除について

本学では、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故ならびに平成23年度以降において豪雨災害等の激甚災害で被災された方の経済的負担を軽減し、被災受験者の進学機会の確保を図るために、令和4(2022)年度に行われる全ての入試において、検定料免除の特別措置を行います。

免除の条件については12ページの「13．東日本大震災(原発事故含む)および激甚災害において被災された方に対する検定料の免除について」を確認してください。

なお、検定料免除申請を行う場合は、出願時に検定料を払い込まないでください。

出願期間 (Step 4)

令和4(2022)年7月15日(金)～7月21日(木) 午後5時まで

出願書類提出先 (Step 4)

福島大学入試課

〒960 - 1296 福島市金谷川1番地 Tel:024 - 548 - 8064

出願書類等 (Step 4)

入学志願者は、次の書類を取り揃え、一般書留速達にして郵送または持参してください。
出願期間を過ぎた場合は受理できません。郵送期間を十分に考慮して早めに送付してください。

ただし、令和4(2022)年7月20日(水)以前の発信局消印のある一般書留速達に限り、期限後に到着した場合でも受理します。出願期間最終日当日の発信局消印の一般書留速達は、受理しません。(出願期間内に書類が本学に到着しないことが確実であるため。)

持参の場合、入試課の窓口受付時間は平日の午前9時から午後5時までです。

出願書類

出願に必要な書類	提出該当者	摘 要
1. 入学志願票 ()	全員	本学所定の様式 必要事項を記載してください。
2. 成績証明書	全員	出身(所属)大学長若しくは学部長または出身学校長が 作成したもの。(コピー不可)
3. 出願資格を証明 する書類	全員	以下の書類のうち、該当するもの。 ・卒業(見込)証明書 ・学位授与証明書 学位授与機構が発行したもの。学位の授与を申請する予定の 者または申請中の者は、短期大学長または高等専門学校長が 作成した学士の学位授与を申請(予定)した旨の証明書を提 出してください。 ・専修学校専門課程修了(見込)証明書 出願資格 に該当する者。証明書内に「修業年限が4年以上 であること」、「課程の修了に必要な総授業時間数が3,400時間 以上あること」の資格要件が明記された修了(見込)証明書 ・専修免許状または一種免許状の写し 出願資格 に該当する者のうち、昭和28年文部省告示第5 号十に該当する者。
4. 研究計画書 ()	全員	本学所定の様式 研究計画の概要を記入してください。
5. 英語能力試験の 成績証明書	一般入試出願者	次に挙げるいずれかの英語能力試験のスコアを採用し ます。 TOEIC Listening & Reading Test (公開テスト) TOEIC Listening & Reading IP (カレッジ TOEIC を含む) 入学試験日の2年前から出願までの間に受験 し獲得したスコアを対象とします。 TOEIC の Official Score Certificate (公式認定証)あるいは Score Report (個人成績表)を成績証明書として提出してくだ さい。複数回受験した場合には、入学志願者が有利だと判断し たスコアについてのみ一つ提出してください。
6. 研究業績報告書 ()	社会人特別入 試出願者	本学所定の様式 研究業績、職歴等を記入してください。
7. 在職していること を示す書類	社会人特別入 試出願者	出願資格 に該当する者は、在職していることを証 明する書類(職員証、健康保険証、給与明細書の写し など)を提出してください。
8. 検定料免除申請書 ()および添付書類	申請者のみ提 出	本学所定の様式 なお、検定料免除申請を行う場合は、出願時に検定料 を払い込まないでください。
9. 出願書類提出用 封筒	全員	各自で準備した市販の角形2号(240mm×332mm) の封筒に、上記1～8の必要書類で該当するものを封入 し、一般書留速達で郵送してください。
10. 出願書類提出用 宛名シート ()	全員	インターネット出願サイトからカラーで印刷し、「9. 出願書類提出用封筒」のおもて面にはがれないよう全面 のり付けで貼付してください。出願に必要な書類を封入 し、宛名シートの出願者チェック欄において、出願書類 に漏れがないことをチェックしてください。

出願書類作成上の注意事項（Step 4）

表中の「 」印の書類はインターネット出願登録後にインターネット出願サイトからA4サイズでカラー印刷する書類です。インターネット出願登録完了後は、登録内容の修正はできませんので、誤入力のないよう注意してください。

表中の「 」印の書類は、本学ウェブサイトから様式をA4サイズでモノクロ印刷（複数ページの場合は両面印刷）して作成する書類です。

（本学ウェブサイト「入試情報 - 募集要項」

（<http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/yoko.html>））

黒か青のボールペンまたは万年筆を用い、楷書で記入してください。自筆作成の指定がない書類は、パソコンによる作成も可です。

日本語以外で書かれた証明書、文書、資料等には、その日本語訳を必ず添付してください。提出期日までに必要書類が完備しない願書は受理しません。

出願手続完了後は、どのような事情があっても、書類の変更は認めません。

出願書類の記載事項と相違する事実が判明した場合は、入学後でも入学を取り消すことがあります。

「5. 英語能力試験の成績証明書」は、入試課において複写後、試験当日に返却します。

ただし、郵送での返却を希望する場合は、「返送用封筒」を各自で準備し、切手を貼り付けて、出願書類に同封してください。

「5. 英語能力試験の成績証明書」については、出願書類提出時にどうしても間に合わない場合、試験日当日に持参することも認めます。ただし、試験日当日に提出できない場合は、受験資格を失いますので注意してください。試験日当日の提出に間に合わない場合は、入試課に相談してください。また、出願書類提出時に提出済みの場合、試験日当日に再度提出することはできません。

受験票の印刷について（Step 5）

受験票は、出願期間後にインターネット出願サイトから印刷できるようになります。**カラー印刷し**、切り取り線に沿ってはさみで切り、**試験当日に必ず持参してください。**

出願時に登録されたメールアドレスへ、受験票の印刷ができるようになったことのお知らせメールをお送りしますが、プロバイダによりメールが届かない場合でも、試験日の3日前までにインターネット出願サイトにログインして受験票を印刷してください。

5. 選抜方法

一般入試

- 一般入試は、英語能力試験の成績証明書、口頭発表・口頭試問および出願書類を総合的に判断して選抜を行います。
- 口頭発表では、受験者に学類・学部在学中の卒業研究および入学後の研究内容について10分以内で説明を行っていただきます。その際、A4用紙4ページ以内の配付資料を3部持参して面接員に配付し、主にそれを使って説明してください。なお、必要であれば補足説明のための機器（例えば、動画再生やデモソフト実行用のノートパソコンなど）を持ち込んで使用することも可能です。ただし、スクリーンやプロジェクターを使用することはできません。
- 口頭試問では、口頭発表やその内容に関連する基礎的・専門的事項について10分程度の試問を行います。

社会人特別入試

- 社会人特別入試は、口頭発表・口頭試問および出願書類を総合的に判断して選抜を行います。
- 口頭発表では、受験者にこれまでの研究成果および入学後の研究内容について10分以内

で説明を行っていただきます。その際、A4用紙4ページ以内の配付資料を3部持参して面接員に配付し、主にそれを使って説明してください。なお、必要であれば補足説明のための機器（例えば、動画再生やデモソフト実行用のノートパソコンなど）を持ち込んで使用することも可能です。ただし、スクリーンやプロジェクターを使用することはできません。

- 口頭試問では、口頭発表やその内容に関連する基礎的・専門的事項について10分程度の試問を行います。
- 外国人留学生特別入試
- 外国人留学生特別入試は、口頭発表・口頭試問および出願書類を総合的に判断して選抜を行います。
 - 口頭発表では、受験者にこれまでの研究成果および入学後の研究内容について10分以内で説明を行っていただきます。その際、A4用紙4ページ以内の配付資料を3部持参して面接員に配付し、主にそれを使って説明してください。なお、必要であれば補足説明のための機器（例えば、動画再生やデモソフト実行用のノートパソコンなど）を持ち込んで使用することも可能です。配付資料と口頭発表で使用する言語は、英語または日本語とします。ただし、スクリーンやプロジェクターを使用することはできません。
 - 共生システム理工学専攻における口頭試問では、口頭発表やその内容に関連する基礎的・専門的事項について、日本語で10分程度の試問を行います。
 - 環境放射能学専攻における口頭試問では、口頭発表やその内容に関連する基礎的・専門的事項について、日本語または英語で10分程度の試問を行います。また、外国居住者に限り、福島大学試験会場での口頭試問・口頭発表が難しい場合には Skype等で試験を行うことがあります。

6. 試験日程および試験会場

試験日程

入 試 種 別	試 験 日	試 験 科 目
一 般 入 試	令和4(2022)年8月19日(金) 集合時間は、試験日の前週までに本学ウェブサイトの「入試情報」でお知らせします。	口頭発表・口頭試問
社 会 人 特 別 入 試		
外国人留学生特別入試		

試験会場

福島大学（福島市金谷川1番地）

本要項末の大学案内図を参照してください。試験会場等の詳細については、本学ウェブサイトの「入試情報」（<http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/>）で公表する案内で確認してください。

7. 障がい等のある入学志願者の事前相談

病気・負傷や障がい等のある入学志願者で、受験上および修学上の配慮を必要とする場合は、出願の1か月前までに本学入試課に申し出てください

8. 安全保障輸出管理について

本学は、外国人留学生等の教育・研究内容が国際的な平和および安全の維持を阻害することが無いよう、「外国為替及び外国貿易法」に基づく安全保障輸出管理を行っています。それに

より、希望する教育・研究内容の変更を求める場合がありますのでご注意ください。
なお、詳細については、研究・地域連携課(024-548-5248)までお問合せください。

9. 合格者発表

令和4(2022)年8月25日(木)午前11時

合格者の発表は、本学ウェブサイトの「入試情報」

(<http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/>)に受験番号を掲載するとともに、合格者には「合格通知書」を郵送します。

電話等による合否の問い合わせには応じません。

合格発表当日は、インターネット回線が混雑するため、つながりにくい場合があります。

10. 入学手続および入学手続に係る留意事項

合格者は、下記期間に郵送により入学手続を完了してください。詳細は、合格者に送付する「入学手続の手引き」に記載します。

【令和4(2022)年10月期入学者】

【入学手続期間】 令和4(2022)年8月29日(月)～9月2日(金) 午後4時必着

指定期日までに入学手続を完了しない場合は、合格者としての権利を失います。

入学手続、諸会費等を記載した「入学手続の手引き」は、「合格通知書」に同封します。

入学料および授業料

入学料 282,000円 [予定]

授業料 前期分 267,900円 [予定] 後期分 267,900円 [予定]

年 額 535,800円 [予定]

(注1) 入学時および在学中に入学料・授業料の改定が行われた場合には、改定時から新たな入学料・授業料が適用されます。

(注2) 入学手続完了後、特別な事情により入学を辞退する場合には、令和4(2022)年9月30日までに「入学辞退願」(様式は任意)を提出してください。ただし、入学料は返還しません。留年等により入学資格を満たせなくなった場合を含みます。

11. 入学料・授業料の減免について

経済的理由により入学料または授業料の納入が困難で、かつ、最終大学・学校等における学業成績が優秀と認められる場合には、選考のうえ入学料または授業料の減免が許可される制度があります。

入学料・授業料の免除等に関する詳細は、合格者に交付する「入学手続の手引き」を参照してください。

問い合わせ先 福島大学学生・留学生課 024-548-8060

12. 注意事項

事情によっては、出願手続、試験期日等について、変更することがあります。変更があった場合は、本学ウェブサイト(入試情報 <http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/>)で、あらためて通知します。

入学志願者の個人情報保護について

本学では、提出された出願書類や入学試験により個人情報を取得します。取得した個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」および「国立大学法人福島大学個人情報保護管理規則」に基づき、下記の目的でのみ利用し、その保護に努めます。

○入学者選抜に関する業務(統計処理等の付随する業務を含む)に利用します。

○入学手続に関する業務に利用します。

○入学手続完了者にあつては、入学後の修学指導業務および学生支援業務、授業料徴収業務、入学者の教育方法の改善に利用します。また、入学料免除、授業料免除および各種奨学金申請（応募）者にあつては、入学試験の成績等を当該免除者または奨学金貸与者の選考判定等に利用する場合があります。

また、出願手続に関する業務を円滑に進めるため、業務の一部を外部に委託しています。委託先に対して、必要な個人情報を提供しますが、委託先との間で適切な取り扱いに関する契約の締結をはじめ、適切な監督を行います。

入学試験に関する問い合わせ先

福島大学入試課

〒960 - 1296 福島市金谷川1番地 024 - 548 - 8064

13. 東日本大震災（原発事故含む）および激甚災害において被災された方に対する検定料の免除について

本学では、東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故、および平成23年度以降において豪雨災害等の激甚災害で被災された方の経済的負担を軽減し、被災受験者の進学機会の確保を図るために、令和4（2022）年度に行われる全ての入試において、検定料免除の特別措置を下記のとおり行います。（注：検定料免除申請を行う場合は、出願時に検定料を払い込まないでください。）

対象者

出願期間までに、次のいずれかに該当すると認められた本学入学志願者については、検定料を全額免除します。

東日本大震災において指定された災害救助法適用地域で被災された方、または平成23年度以降に「激甚災害」に指定された災害により被災された方で、本人または主たる家計支持者が居住していた家屋が全壊、大規模半壊、半壊、流失の罹災と認定された方

東日本大震災において指定された災害救助法適用地域で被災された方、または平成23年度以降に「激甚災害」に指定された災害により被災された方で、主たる家計支持者が死亡または行方不明となった方

東京電力福島第一原子力発電所事故を受けて設定された「警戒区域」、 「計画的避難区域」、 「緊急時避難準備区域」、 「特定避難勧奨地点」に平成23年3月11日時点で本人または主たる家計支持者が居住していた方で、これに伴い避難を余儀なくされた方

上記免除対象者の詳細については次の表をご確認ください。

区 分	検定料免除の可否（可は ，否は×で示しています）				
	全 壊	大規模半壊	半 壊	流 失	一部損壊
家屋の全・半壊					×
主たる家計支持者が死亡または行方不明	主たる家計支持者				主たる家計支持者以外
					×
原発事故による影響	警戒区域	計画的避難区域	緊急時避難準備区域	特定避難勧奨地点	それ以外の地域
					×

注：区域については、再編前の区域としています。

必要書類

検定料免除を申請するにあたって必要な書類は以下のとおりです。

検定料免除申請書（本学所定の様式）

次に挙げる証明書のいずれか一つの写し

上記 に該当する場合、「市町村長が発行する罹災証明書」

上記 に該当する場合、「主たる家計支持者の死亡または行方不明を確認できる書類」

上記 に該当する場合、「避難している(いた)ことが確認できる書類」(自己申立書でも可)

必要書類の提出方法と提出期間

出願期間中に書類と合わせて提出してください。

なお、検定料免除申請を行う場合は、出願時に検定料を払い込まないでください。

14. 入試における新型コロナウイルス感染症対応について

1. 振替試験について

令和4(2022)年度10月期福島大学大学院共生システム理工学研究科(博士前期課程)入学試験において、新型コロナウイルス感染症の罹患等により、受験することができない者は、以下のとおり振替試験を申請することができます。

(1) 対象者

新型コロナウイルス感染症に罹患し、試験日までに医師が治癒したと診断していない者
試験直前に保健所等から濃厚接触者に該当するとされた者

(注)ただし、無症状の濃厚接触者については、後掲「2. 新型コロナウイルス感染症における無症状の濃厚接触者への対応について」による申請により、受験を許可された場合、別室での受験ができます。

発熱・咳等の症状があり、試験当日の検温で37.5度以上の熱がある者

(2) 申請期間

試験日の前日および当日 9:00~17:00

(3) 申請手続

A 申請期間内に本人または代理人が「受験票」と「診断書等(治療期間および検温した体温が明記されたもの)」を持参し、「追試験等申請書」により申請してください。

B 申請期間内に本人または代理人が来学できない場合は、電話で受付を行います。受付後、「受験票」および「診断書等」の提出が必要となります。

(注)診断書等の提出は申請期間の翌日までとします。翌日が土曜・日曜にあたる場合は、月曜日(月曜日が祝日にあたる場合は火曜日)とします。

(4) 振替試験の認否結果について

振替試験の認否については、本人に通知します。

(5) 振替試験日程および試験会場

振替試験日程は、本学が指定する日時とします。

試験会場は、当初受験予定であった会場に準じます。

(6) 合格者発表および入学手続

別途本人に通知します。

2. 新型コロナウイルス感染症における無症状の濃厚接触者への対応について

本学を受験予定の方で、保健所より濃厚接触者に該当すると伝えられた者のうち、次のいずれの要件も満たし、本学入試課へ所定の申請手続を行い、受験を許可された場合に別室での受験ができます。

保健所より濃厚接触者に該当すると伝えられた者で受験を希望する場合は、まずは速やかに本学入試課に電話でご連絡ください。なお、原則として入試2日前の午前10時までに入試課にご連絡をお願いします。

【受験を認める要件】

初期スクリーニング（自治体または自治体から指示された医療機関が実施するPCR等の検査（行政検査））の結果、陰性であること。

初期スクリーニングの検査実施後、検査結果が判明するまでは受験不可となりますので、振替試験を受験いただきます。

ただし、行政検査が実施できない自治体の受験生については、可能であれば抗原定性検査キットにより陰性確認を行った上で、の要件を満たせば受験が可能です。

公共の交通機関（電車、バス等）を利用せず、かつ、人が密集する場所を避けて試験場に来ることができること（自家用車等を利用すること）。

受験当日も無症状であること。

- (注) 1. 本学入試課への申告後に別室での受験に問題がないと判断された場合、申請者へ確認を行うと同時に、速やかに郵送またはメールで申請者宛てに許可証を送付します。
2. 受験当日は許可証を持参し、指定時間、指定場所（許可証と同封）に集合してください。そこで、無症状であるかの確認を行います。
- 試験当日にいずれの要件も満たしている場合は、感染防止対策をとり、別室受験とします。試験当日に発熱、咳等の症状がある場合には受験できません。

3. 受験生の皆様へのお願い

本学では、試験場等の衛生管理体制に万全を期し、入試を実施します。受験生の皆様は、以下の新型コロナウイルス感染症対策をお願いします。

< 試験前 >

- 日頃からの体調管理、不要不急の外出等は行わないなど、感染リスクを避ける行動を心がけてください。
- 新型コロナウイルス感染症に罹患し治癒していない者および保健所等から濃厚接触者に該当するとされた者は受験できません。（無症状の濃厚接触者は「2. 新型コロナウイルス感染症における無症状の濃厚接触者への対応について」を参照してください。）

< 試験当日 >

- 試験当日は、検温を行い37.5度以上の熱がある場合は受験を取り止めてください。
- 試験場内において、写真照合時を除き、必ずマスクを着用してください。
- アルコールによる手指消毒、トイレ後の手洗いを行ってください。
- 発熱、咳等の体調不良の場合には、試験監督等に申し出てください。
- 換気を行いますので、体温調節が可能な服装をご準備ください。
- 試験前、休憩時間等は、他者との接触・会話を極力控えてください。
- 移動の電車等においても、マスクを着用し、友人との会話は極力控えてください。

< 試験終了後 >

- 入学試験受験後、1週間以内に新型コロナウイルス感染症に罹患したことが判明した場合には、必ず、福島大学入試課に連絡してください。
- 入試において感染者が出た場合には、保健所に連絡先等の情報提供を行う場合があります。ただし、提供する個人情報は新型コロナウイルス感染症拡大防止以外には利用いたしません。

なお、今後の新型コロナウイルス感染状況によって、令和4年度入試における新型コロナウイルス感染症の対応が変更となる可能性があります。対応に変更が生じた場合には、本学ウェブサイト（入試情報 <http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/>）で随時お知らせします。

- 1 . 福島大学大学院共生システム理工学研究科

共生システム理工学専攻（博士前期課程）の特色

1 . 教育課程の編成の基本理念

共生システム理工学専攻は、「共生のシステム科学」という新たな枠組みの中で、現代社会の課題解決に向けた高度専門職業人の育成をするための、広範で多様な専門教育を提供します。専門的学修目標を明確化するため、[数理・情報システム分野]、[物理・メカトロニクス分野]、[物質・エネルギー科学分野]、[生命・環境分野]の4つの分野を設けています。

各分野には、高度専門職業人・研究者育成の核となる科目群が配置されるとともに、各分野を担当する教員が学生を指導することにより、専門性が明確に意識される体制をとっています。

また、地域社会のニーズと大学院教育のマッチングを促進する一環として、福島県の研究機関等の協力を得て、「地域実践研究」の授業を実施しています。

2 . 修了要件，履修方法および学位の授与

本研究科に2年以上在学し，下記修了要件を満たした者に対して「修士（理工学）」の学位を授与します。

（修了要件および履修方法）

必修科目14単位（「修士論文研究」，「理工学セミナー」），分野毎に選択科目16単位以上（[基礎領域] 6単位以上，[発展領域] 4単位以上），合計30単位以上を修得し，本研究科が行う修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

3. 共生システム理工学専攻（博士前期課程）開設授業科目および単位数

開設授業科目および単位数									
履修分野	領域	授 業 科 目	履修年次	単 位 数		授 業 形 態		備 考	
				必 修	選 択	講 義	演 習		
共通	基礎領域	共生システム特論	1		2	○			
		応用非線型解析特論	1		2	○			
数理・情報システム分野	基礎領域	応用数学特論	1		2	○			
		ネットワークシステム特論	1		2	○			
		知能情報学特論	1		2	○			
		アルゴリズム特論	1		2	○			
		経営情報システム特論	1		2	○			
		情報セキュリティ特論	1		2	○			
		ソフトウェア工学特論	1		2	○			
		交通物流システム工学特論	1		2	○			
		ロジスティクスシステム特論	1		2	○			
		技術経営（MOT）特論	1		2	○			
		生産システム最適化特論	1		2	○			
		データ工学特論	1		2	○			
		最適化特論	1		2	○			
		環境経済システム特論	1		2	○			
	発展領域	応用非線型解析特論	1		2		○		
		応用数学特論	1		2		○		
		ネットワークシステム特論	1		2		○		
		知能情報学特論	1		2		○		
		アルゴリズム特論	1		2		○		
		経営情報システム特論	1		2		○		
		情報セキュリティ特論	1		2		○		
		ソフトウェア工学特論	1		2		○		
		交通物流システム工学特論	1		2		○		
		ロジスティクスシステム特論	1		2		○		
		技術経営（MOT）特論	1		2		○		
		生産システム最適化特論	1		2		○		
		データ工学特論	1		2		○		
		最適化特論	1		2		○		
環境経済システム特論	1		2		○				
地域実践研究	2		2			○	福島県研究機関等		
地域実践研究	2		2			○	福島県研究機関等		
物理・メカトロニクス分野	基礎領域	人間医工学特論	1		2	○			
		材料システム設計特論	1		2	○			
		物性物理学特論	1		2	○			
		宇宙と素粒子の物理学特論	1		2	○			
		感覚運動工学特論	1		2	○			
		パワーエレクトロニクス特論	1		2	○			
		エネルギーシステム工学特論	1		2	○			
		メカトロニクス特論	1		2	○			
	ヒューマンマシンインタフェース特論	1		2	○				
	発展領域	人間医工学特論	1		2		○		
		材料システム設計特論	1		2		○		
		物性物理学特論	1		2		○		
		宇宙と素粒子の物理学特論	1		2		○		
		感覚運動工学特論	1		2		○		
		パワーエレクトロニクス特論	1		2		○		
		エネルギーシステム工学特論	1		2		○		
		メカトロニクス特論	1		2		○		
		ヒューマンマシンインタフェース特論	1		2		○		
		特殊加工特論	1		2		○		福島県研究機関等
		地域実践研究	2		2		○		福島県研究機関等
地域実践研究		2		2		○		福島県研究機関等	

開設授業科目および単位数										
履修分野	領域	授 業 科 目	履修年次	単 位 数		授業形態		備 考		
				必 修	選 択	講 義	演 習			
物質・エネルギー科学分野	基礎領域	物理化学特論	1		2	○				
		無機化学特論	1		2	○				
		有機化学特論	1		2	○				
		合成化学特論	1		2	○				
		分析化学特論	1		2	○				
		材料物性特論	1		2	○				
		生物工学特論	1		2	○				
		無機固体化学特論	1		2	○				
		製造・エネルギープロセス特論	1		2	○				
		バイオマス資源工学特論	1		2	○				
		再生可能エネルギー特論	1		2	○				
		エネルギー政策特論	1		2	○				
		発展領域	物理化学特論	1		2		○		
	無機化学特論		1		2		○			
	有機化学特論		1		2		○			
	合成化学特論		1		2		○			
	分析化学特論		1		2		○			
	材料物性特論		1		2		○			
	生物工学特論		1		2		○			
	無機固体化学特論		1		2		○			
	製造・エネルギープロセス特論		1		2		○			
	バイオマス資源工学特論		1		2		○			
	風力エネルギー技術特論		1		2		○			
	太陽光発電特論		1		2		○			
	地中熱システム特論		1		2		○			
	工業材料特論		1		2		○		福島県研究機関等	
	地域実践研究		2		2		○		福島県研究機関等	
	地域実践研究	2		2		○		福島県研究機関等		
生命・環境分野	基礎領域	植物生態学特論	1		2	○				
		植物多様性特論	1		2	○				
		環境計画特論	1		2	○				
		動物形態学特論	1		2	○				
		神経生理学特論	1		2	○				
		精神生理学特論	1		2	○				
		地質学特論	1		2	○				
		流域水管理特論	1		2	○				
		環境モデリング特論	1		2	○				
		バイオ・エコエンジニアリング特論	1		2	○				
		実験心理学特論	1		2	○				
		サウンドスケープ特論	1		2	○				
		流域水循環特論	1		2	○				
		地下水盆管理計画特論	1		2	○				
		地域計画特論	1		2	○				
		環境微生物学特論	1		2	○				
		発展領域	植物生態学特論	1		2		○		
			植物多様性特論	1		2		○		
	環境計画特論		1		2		○			
	動物形態学特論		1		2		○			
	神経生理学特論		1		2		○			
	精神生理学特論		1		2		○			
	地質学特論		1		2		○			
	流域水管理特論		1		2		○			
	環境モデリング特論		1		2		○			
	バイオ・エコエンジニアリング特論		1		2		○			
	実験心理学特論		1		2		○			
	サウンドスケープ特論		1		2		○			
	流域水循環特論		1		2		○			
	地下水盆管理計画特論		1		2		○			
	地域計画特論		1		2		○			
	環境微生物学特論	1		2		○				
	地域実践研究	2		2		○		福島県研究機関等		
地域実践研究	2		2		○		福島県研究機関等			

開設授業科目および単位数								
履修分野	領域	授 業 科 目	履修年次	単 位 数		授業形態		備 考
				必 修	選 択	講 義	演 習	
		理工学セミナー	1	2			○	
		理工学セミナー	1	2			○	
		理工学セミナー	2	2			○	
		修士論文研究	1	2			○	
		修士論文研究	1	2			○	
		修士論文研究	2	2			○	
		修士論文研究	2	2			○	

詳しい授業内容については、本学のウェブサイト上で公開しているシラバス（<http://kyoumu.adb.fukushima-u.ac.jp>）を参照してください。

一部変更になる可能性があります。

4. 教員一覧および担当授業科目（一部変更になる場合もあります。）

分野	担当教員	授業科目の名称	分野	担当教員	授業科目の名称
数理・情報システム分野	石岡 賢	技術経営（MOT）特論 ・	物質・エネルギー科学分野	浅田 隆志	バイオマス資源工学特論 ・
	石川 友保	ロジスティクスシステム特論 ・		生田 博将	無機固体化学特論 ・
	内海 哲史	ネットワークシステム特論 ・		猪俣 慎二	無機化学特論 ・
	寛 宗徳	生産システム最適化特論 ・		大橋 弘範	物理化学特論 ・
	笠井 博則	応用数学特論 ・		大山 大	合成化学特論 ・
	神長 裕明	ソフトウェア工学特論 ・		佐藤 理夫	製造・エネルギープロセス特論 ・
	篠田 伸夫	情報セキュリティ特論 ・		杉森 大助	生物工学特論 ・
	董 彦文	経営情報システム特論 ・		高貝 慶隆	分析化学特論 ・
	中川 和重	応用非線型解析特論 ・		高安 徹	有機化学特論 ・
	中村 勝一	データ工学特論 ・		中村 和正	材料物性特論 ・
	中山 明	最適化特論 ・		兼子 伸吾	バイオ・エコエンジニアリング特論 ・
	西嶋 大輔	環境経済システム特論 ・		川越 清樹	流域水管理特論 ・
	樋口 良之	交通物流システム工学特論 ・		川崎 興太	地域計画特論 ・
	藤本 勝成	知能情報学特論 ・		木村 勝彦	植物生態学特論 ・
三浦 一之	アルゴリズム特論 ・	黒沢 高秀	植物多様性特論 ・		
物理・メカトロニクス分野	岡沼 信一*	パワーエレクトロニクス特論 ・	生命・環境分野	後藤 忍	環境計画特論 ・
	衣川 潤	ヒューマンマシンインタフェース特論 ・		小山 純正*	神経生理学特論 ・
	島田 邦雄	エネルギーシステム工学特論 ・		柴崎 直明	地下水益管理計画特論 ・
	高橋 隆行	メカトロニクス特論 ・		高原 円	精神生理学特論 ・
	田中 明	人間医工学特論 ・		筒井 雄二	実験心理学特論 ・
	馬場 一晴	宇宙と素粒子の物理学特論 ・		塘 忠顕	動物形態学特論 ・
	二見 亮弘	感覚運動工学特論 ・		長橋 良隆	地質学特論 ・
	山口 克彦	物性物理学特論 ・		永幡 幸司	サウンドスケープ特論 ・
				難波 謙二	環境微生物学特論 ・
		横尾 善之	流域水循環特論 ・		
		吉田 龍平	環境モデリング特論 ・		

・「*」印のついた教員は、研究指導教員にはなりません。

5. 福島県関係研究機関等との協力について

概要

本専攻では、福島県内における高度な研究水準をもつ福島県の研究機関等（ハイテクプラザ、環境創造センター、農業総合センター等）の協力のもと、地域に根ざし、地域に貢献できる人材を育成するための実践的な大学院教育を行います。

趣旨

社会に開かれた大学院として、地域の課題を認識し、実践的に地域に貢献できる人材の育成を行い、大学院教育の活性化を図ります。

教育研究内容の豊富化、学際化、具体化を推進します。

研究機関の研究者との交流を促進し、共同研究のシーズを形成し、研究の推進を図ります。

実施内容

「地域実践研究」は福島県の研究機関等の施設を活用して実施します。

地域の課題について実践的に学べる授業を福島県の研究機関の研究員の協力のもとに実施します。

6. 教育方法の特例措置について

本専攻では、大学院での履修を希望する社会人の期待に応えるべく、昼夜開講制を採り、夜間の2時限（18時00分～19時30分および19時40分～21時10分）に設定された授業の履修によっても課程修了に必要な全単位（30単位）を履修できる分野もあります。この特例措置を希望する場合には、本学入試課と入学後に指導を希望する教員に、出願前に相談してください。

7. 長期履修学生制度について

職業等に従事することにより時間的制約のある学生のために、標準修業年限を超えた期間（長期履修期間）で修学を可能にする制度です。

長期履修生として認められた場合は、認められた長期履修期間に応じて分割した額の授業料を各年度に支払うこととなります（例えば、博士前期課程学生の場合、通常2年で修了となりますが、この制度を利用することで、授業料総額はそのままに3年もしくは4年間かけて学び、修了することが可能となります）。

長期履修学生制度についての問い合わせ先

福島大学教務課

024 - 548 - 8357

8. 教育職員免許状

既に、中学校教諭1種免許状（理科，技術），高等学校教諭1種免許状（理科，工業，情報）を取得している者は、本専攻において、教育職員免許法および同施行規則に定める所定の単位を修得すれば、取得している1種免許状と同種の専修免許状を取得することができます。

- 2 . 福島大学大学院共生システム理工学研究科 環境放射能学専攻（博士前期課程）の特色

1 . 教育課程の編成の基本理念

環境放射能学専攻は、本学が有する充実した観測環境を活用した実践的教育・研究を行い、環境放射能分野を世界的にリードするとともに、国内外の研究機関・大学との協力関係に基づき、グローバルな視点を有する高度専門職業人を育成するため、環境放射能学に関する俯瞰的知識ならびに実習を含む専門的教育を提供します。また、専攻としての専門的学習目標を明確化するため、[生態学分野],[モデリング分野],[計測分野]の3分野を設けています。

各分野には、高度専門職業人・研究者育成の核となる科目群が配置されるとともに、各分野を担当する教員が学生を指導することにより、専門性が明確に意識される体制をとっています。

さらに、環境放射能学に関する実践的な力を有する専門職業人を育成するために、福島のフィールドならびに環境放射能研究所が有する海外機関との協力関係を生かし、実際に行われている環境放射能研究に参加してその手法を習得するために、基礎領域教育の中に野外演習を核とする「実践科目」を実施します。

全科目を通して、表現力や対話力、英語力の育成を目的とした討論形式の授業時間も十分に設定します。また、多様な知識背景を持つ入学者に対して、補完的な教育を行う導入教育も行います。

2 . 修了要件、履修方法および学位の授与

本研究科に2年以上在学し、下記修了要件を満たした者に対して「修士（理工学）」の学位を授与します。

（修了要件および履修方法）

必修科目24単位（基礎領域の実践科目ならびに共通科目、深化領域の講究科目ならびに分野毎の必修科目）、分野毎に深化領域の選択科目6単位以上、合計30単位以上を修得し、本研究科が行う修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

3. 環境放射能学専攻（博士前期課程）開設授業科目および単位数

開設授業科目および単位数											
領域区分	科目区分	履修分野	授業科目名	履修年次	単位数		授業形態			備考	
					必修	選択	講義	演習	実験・実習		
基礎領域	実践科目	共通	環境放射能学演習	1	1			○		オムニバス	
			環境放射能学特別演習	1	1			○		オムニバス	
	共通科目		核種分析学	1	2			○			オムニバス
			放射線計測学	1	2			○			
			放射線影響学	1	2			○			
			放射生態学	1	2			○			オムニバス
			環境放射能学Ⅰ	1	2			○			オムニバス
			環境放射能学Ⅱ	1	2			○			オムニバス
			放射能災害学	1	2			○			
深化領域	応用科目	生態学分野	水圏放射生態学	1		2	○				
			陸域放射生態学	1		2	○				
			森林放射能学	1		2	○				
			動物生態学	1		2	○				
			バイオ・エコエンジニアリング特論	1		2	○			他専攻開設科目	
			バイオ・エコエンジニアリング特論	1		2		○		他専攻開設科目	
			環境微生物学特論	1		2	○			他専攻開設科目	
			環境微生物学特論	1		2		○		他専攻開設科目	
			放射能生態実習	2	2				○	オムニバス	
		モデリング分野	陸域放射能動態学	1		2	○				
			移動現象論	1		2	○				
			放射能モデリング学特論	1		2	○				
			海洋放射能動態学特論	1		2	○				
			流域水管理特論	1		2	○			他専攻開設科目	
			流域水管理特論	1		2		○		他専攻開設科目	
			流域水循環特論	1		2	○			他専攻開設科目	
			流域水循環特論	1		2		○		他専攻開設科目	
			地下水盆管理計画特論	1		2	○			他専攻開設科目	
	地下水盆管理計画特論		1		2		○		他専攻開設科目		
	放射能モデリング実習		2	2				○	オムニバス		
	計測分野	陸域生物圏放射能動態学	1		2	○					
		放射能等の分離技術	1		2	○					
		放射線計測工学特論	1		2	○					
		物性物理学特論	1		2	○			他専攻開設科目		
		物性物理学特論	1		2		○		他専攻開設科目		
		分析化学特論	1		2	○			他専攻開設科目		
		分析化学特論	1		2		○		他専攻開設科目		
		メカトロニクス特論	1		2	○			他専攻開設科目		
		メカトロニクス特論	1		2		○		他専攻開設科目		
	放射能計測実習	2	2				○	オムニバス			
講究科目	共通	修士論文研究	1	2			○				
		修士論文研究	2	2			○				
		修士論文研究	2	2			○				

は10月期入学者の場合、履修年次は1年次とする。

4. 教員一覧および担当授業科目（一部変更になる場合もあります。）

分野	担当教員	授業担当科目の名称
共通	全教員（オムニバス）	環境放射能学演習・環境放射能学特別演習
	アレクセイ コノプリョフ	放射能災害学
	塚田 祥文	核種分析学
	ヴァシル ヨシエンコ	放射線影響学
	平尾 茂一	放射線計測学
	全教員（オムニバス）	放射生態学
	全教員（オムニバス）	環境放射能学 ・
生態学分野	石庭 寛子	動物生態学
	五十嵐 康記	森林放射能学
	兼子 伸吾	バイオ・エコエンジニアリング特論 ・
	ヴァシル ヨシエンコ	陸域放射生態学
	難波 謙二	環境微生物学特論 ・
	和田 敏裕	水圏放射生態学、放射能生態実習
モデリング分野	高田 兵衛	海洋放射能動態学特論
	川越 清樹	流域水管理特論 ・
	柴崎 直明	地下水盆管理計画特論 ・
	平尾 茂一	移動現象論、放射能モデリング実習
	マキシム グシエフ	放射能モデリング学特論
	横尾 善之	流域水循環特論 ・
	脇山 義史	陸域放射能動態学、放射能モデリング実習
計測分野	イスマイル ラハマン	放射能等の分離技術
	高貝 慶隆	分析化学特論 ・
	鳥居 建男	放射線計測工学特論
	高橋 隆行	メカトロニクス特論 ・
	塚田 祥文	陸域生物圏放射能動態学、放射能計測実習
	山口 克彦	物性物理学特論 ・

「 」は共生システム理工学専攻と兼任教員

5. 指導教員一覧（一部変更になる場合もあります。）

分野	氏名
生態学分野	ヴァシル ヨシエンコ 和田 敏裕 石庭 寛子 五十嵐 康記
モデリング分野	アレクセイ コノプリョフ 高田 兵衛 平尾 茂一 脇山 義史 マキシム グシエフ
計測分野	イスマイル ラハマン 塚田 祥文 鳥居 建男

詳しくは、本学環境放射能研究所のウェブサイト（http://www.ier.fukushima-u.ac.jp/web/b_list.html）を参照してください。

6. 環境放射能研究所の連携機関等との協力について

概要

本専攻では、高度な研究水準を持つ環境放射能研究所の連携機関等（国内12，外国23）の協力のもと、実践的な大学院教育を行います。

趣旨

環境放射能に関する地域ならびに世界のさまざまな実績的活動を幅広く理解して国際的に活躍できる人材の育成を行い、大学院教育の活性化を図ります。

教育研究内容の豊富化，学際化，具体化を推進します。

研究機関の研究者との交流を促進し，共同研究のシーズを形成し，研究の推進を図ります。

実施内容

「環境放射能学演習」，「環境放射能学特別演習」の一環として実施します。

7. 長期履修学生制度について

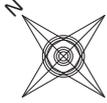
職業等に従事することにより時間的制約のある学生のために、標準修業年限を超えた期間（長期履修期間）で修学を可能にする制度です。長期履修生として認められた場合は、認められた長期履修期間に応じて分割した額の授業料を各年度に支払うこととなります（例えば、博士前期課程学生の場合、通常2年で修了となりますが、この制度を利用することで、授業料総額はそのままに3年もしくは4年間かけて学び、修了することが可能となります）。

長期履修学生制度についての問い合わせ先

福島大学教務課

024 - 548 - 8357

福島大学案内図

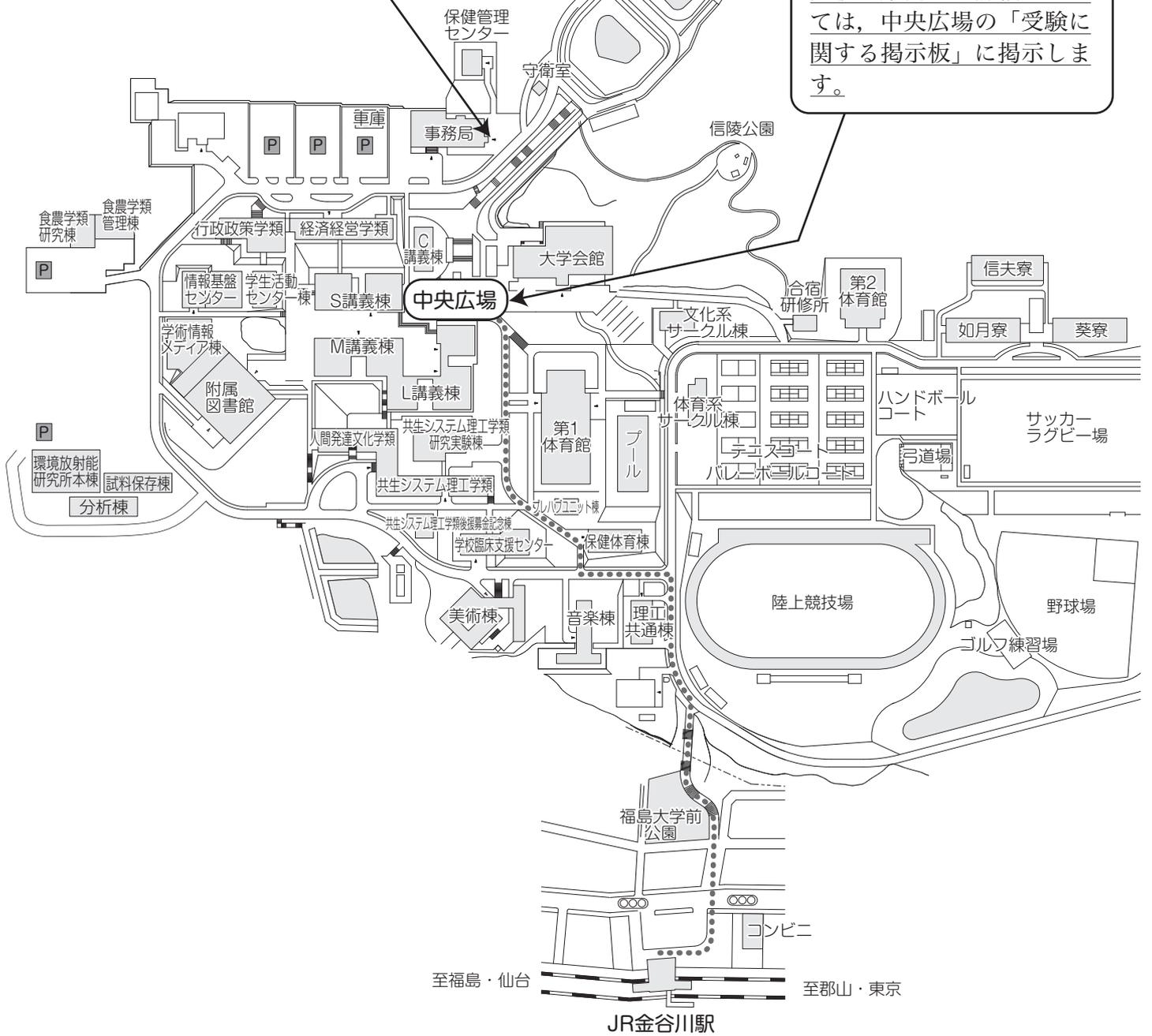


県道 至福島
福島・安達線 (旧国道4号) 至松川町

入試課 (1F)

受験に関する掲示板

試験室案内など詳細については、中央広場の「受験に関する掲示板」に掲示します。



かなやがわ
JR東北本線金谷川駅下車
中央広場まで徒歩約10分



国立大学法人

福島大学

Fukushima University

入学志願票

志願専攻 (印を付してください)		入試区分 (印を付してください)		受験番号(記入不要)	
共生システム理工学 専攻	環境放射能学 専攻	一般入試	社会人 特別入試	外国人 留学生 特別入試	MR
ふりがな	生年月日・年齢			性別	
氏名	年 月 日 (満 歳) 令和4年9月30日現在			男 ・ 女	
	希望する指導教員名	指導教員の分野	国籍(外国人のみ)	在留資格(外国人のみ)	
第1希望					
第2希望					
	該当する 出願資格 (全員)	(印を付してください) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	該当する 要件 (社会人特別入試)	(印を付してください) A B C	
出願資格	国立・公立・私立	大学	学部	学科	
			学群	学類	
			年 月	卒業・卒業見込	
		年 月 日	学位授与・学位授与見込		
		年 月 日	個別入学資格審査認定		
現住所	住所 〒	-	-	-	-
	E-mail	-	-	-	-
連絡先 (日本国内)	住所 〒	-	-	-	-
	E-mail	-	-	携帯電話	-
勤務先 (有職者)	勤務先名称	〒	-	職種・役職等()	
	勤務先住所	〒	-		

(注) 記入の際は, 次頁の記入上の注意を参照してください。

学 歴		
日本国籍を有しない者は「初等教育」から、それ以外の者は「高等学校」から記入してください。 なお、研究生等の履歴も記入してください。		
学 校 名	期 間	
	年 月	入学
	年 月	卒業・卒業見込
	年 月	入学
	年 月	卒業・卒業見込
	年 月	入学
	年 月	卒業・卒業見込
	年 月	入学
	年 月	卒業・卒業見込
	年 月	入学
	年 月	卒業・卒業見込
	年 月	入学
	年 月	卒業・卒業見込
	年 月	入学
	年 月	卒業・卒業見込
職 歴		
勤 務 先 名 称	職 種	勤 務 期 間
		年 月 から
		年 月 まで
		年 月 から
		年 月 まで
		年 月 から
		年 月 まで
		年 月 から
		年 月 まで
		年 月 から
		年 月 まで
上記のとおり相違ありません。		
年 月 日		
氏名（志願者）		

（注）記載事項と相違する事実が判明した場合は，入学後でも入学を取り消すことがあります。

【入学志願票記入上の注意】

「希望する指導教員名」「指導教員の分野」は，募集要項 P.18～「4．教員一覧および担当授業科目」もしくはP.22～「5．指導教員一覧」を参照し第2希望まで記入してください。出願に当たっては，出願前に志望領域の希望指導教員と連絡を取り，研究分野の適合性について必ず相談してください。

「指導教員の分野」については，以下のうち，該当するものを記入してください。

共生システム理工学専攻：数理・情報システム，物理・メカトロニクス，
物質・エネルギー科学，生命・環境

環境放射能学専攻：生態学，モデリング，計測

「該当する出願資格」（全員）は募集要項 P.3～，「該当する要件」（社会人特別入試）は，募集要項 P.4を参照し 印を付してください。

「連絡先」は，出願書類に関する照会等に利用しますので，連絡が確実なところを記入してください。

【研究計画書は全員記入し提出してください】

研究計画書

入試種別	一般入試	社会人特別	外国人留学生 特別入試	受験番号 (記入不要)	MR
ふりがな				生年月日	性別
氏名				年 月 日 (満 歳) 令和4年9月30日現在	男・女
	希望する指導教員名		指導教員の分野		
第1希望					
第2希望					
研究計画の概要を記入してください					

(注) 「希望する指導教員名」「指導教員の分野」は、以下のページを参照し第2希望まで記入してください。

- ・共生システム理工学専攻：募集要項p.18～「4. 教員一覧および担当授業科目」参照
 - ・環境放射能学専攻：募集要項p.22～「5. 指導教員一覧」参照
- 「指導教員の分野」については、以下のうち、該当するものを記入してください。
- ・共生システム理工学専攻：数理・情報システム，物理・メカトロニクス，
物質・エネルギー科学，生命・環境
 - ・環境放射能学専攻：生態学，モデリング，計測

【検定料免除申請者のみ提出】
検定料は払い込まないでください。

受験番号 (記入不要)

MR

検定料免除申請書

令和 年 月 日

福島大学長 殿

入学志願者氏名 _____

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災，東京電力福島第一原子力発電所事故，平成 23 年度以降に発生した豪雨災害等の激甚災害において，下記のとおり被災しましたので，必要書類を添付のうえ，検定料の免除を申請します。

記

1. 被災した原因 (該当箇所にチェックをしてください。)

東日本大震災

東京電力福島第一原子力発電所事故

平成 23 年度以降に発生した豪雨災害等の激甚災害

2. 被災状況 (該当箇所にチェックをしてください。)

家屋の損壊

全壊

大規模半壊

半壊

流失

主たる家計支持者が死亡または行方不明

東京電力福島第一原子力発電所の事故による避難区域 (区域は再編前の区域による)

警戒区域

計画的避難区域

緊急時避難準備区域

特定避難勧奨地点

入学志願者氏名	
志願研究科	共生システム理工学研究科
連絡先	〒 ()

入学後の学資負担者氏名	印 (続柄)
連絡先	〒 ()